

望月 久教授 最終講義

理学療法は、対象者に非特異的な物理的刺激を与え、その刺激に対する身体の反応を利用して対象者の身体機能の向上を図る治療技術と考えることができます。物理療法では頸椎・腰椎牽引における張力、機能的電気刺激や経頭蓋磁気刺激などの電磁気、ホットパックやアイスパックによる温度や熱などが物理的な刺激として用いられます。運動療法は、ストレッチングのように受動的な力を身体に加えたり、筋力増強運動や動作練習のように対象者に能動的に力を発揮させたりすることで生じる身体反応を治療に適用しています。

骨格筋は能動的に力を発揮できる唯一の組織で、骨格筋自体が理学療法の対象であるとともに、骨格筋の活動による運動は理学療法の手段にもなります。そのため、骨格筋がどのような機能を持ち、物理的刺激に対してどのような反応を示すのかを理解することは、理学療法を実施する際の基礎として重要です。講演では、理学療法に関連する骨格筋の機能について、演者がこれまで知り得たことをお伝えしたいと思っています。皆様の、よりよい理学療法や新しい理学療法への発展に結び着けば幸いです。